

あなたの街

三田4・5丁目・高輪・白金・白金台

発行：高輪地区総合支所 地区政策課

- 7 大使館探検隊 マラウイ大使館
- 6 町工場の発明家たち
- 5 わたしたちの街の身近な公園 亀塚公園
- 4 高輪にいた牛たち
- 3 コメディアン 関根 勤さん
- 2 東海大学付属高輪台高等学校 吹奏楽部 / 白金猿町町会



模写 グスタフ・クリムト「乙女」

港区立三田中学校 永田 光さん

色がとてもあざやかでそれを表現をすることが大変でした。また細かい部分など気をくばって描かなくては、人の顔を描くのも苦労しました。

緑あふれる街に

新緑が映える季節になりました。散歩をしても、木々の緑や花、香り、鳥のさえずりを楽しむことができます。この高輪地区（三田4・5、高輪、白金、白金台）の特徴の一つは、都心にしては緑が多いということです。「港区みどりの実態調査」（平成19年3月）によれば、この地区の樹木の数は4300本を超え、他の地区に比べても、圧倒的に多くなっています。さらに、幹回りが220cmを超えるような大きな木が400本以上あるのも、特筆すべきことです。もちろん、自然教育園や庭園美術館の存在は大きいですが、歴史的に見て、大きな屋敷やお寺があったので、まとまった緑や古木が残されたおかげでしょう。

これらの木々は私たちの目を楽しませるだけでなく、様々な効用をもたらします。大気を浄化したり、火事の延焼を防いだり、鳥や昆虫の生息場所にもなります。また、最近の研究でわかってきたことは、まとまった緑のかたまりは、夏のあいだの暑さを和らげる効果があるということです。

平成18年7月の最高気温の平均値を見ると、高輪地区のまとまった緑のある場所は、港区の暑いところと比較すると、なんと2.5～3度も低いそうです。まとまった緑が、クールアイランドという涼しい大気のかたまりをつくるためです。このように、

緑は夏の冷房代を節約し、温暖化防止に役立っています。年々、地球温暖化やヒートアイランド現象で、東京の夏は暑くなる一方です。なんとかまとまった緑を残し、育て、あのいやな都心の暑さを和らげたいですね。

緑が多いというこの地区の特徴は、私たちにとって先人から受け継がれた大変な財産なのではないでしょうか。緑を残すことは、実は簡単なことではなく、樹木の手入れや管理、枯れ枝や落葉の始末に、労力と費用が必要とされます。今まで、緑が守られてきたのは、多くの人々の努力の積み重ねの結果でもあるのです。

例えば、高松中学校や聖心女子学院は、校内にある多くの樹木を大切に守っています。また、高輪東禅寺は、広い敷地の自然を守るだけでなく、緑の大切さを訴えるために「緑のコンサート」を毎年開催しています。一方、住宅地周辺でまだ緑が不足しているところもあります。

みんなで、緑をしっかりと守るとともに、少しでも木を増やし、屋上や壁面を緑化し、地区全体に緑があふれるになれば、世界に誇れる美しい、快適な街になるのではないかと思います。



迫力ある吹奏楽部

東海大学付属高輪台高等学校

草木芽吹く春の午後、東海大学付属高輪台高等学校の吹奏楽部を訪問しました。

創部37年目を迎え、部員160名を数えるこの吹奏楽部は、1994年に畠田先生の就任をえて以来、破竹の勢いでその名声を広め続け、全国の吹奏楽のファンから『高輪台』の愛称で親しまれています。

1997年の日本管楽合奏学校コンテスト全国大会での最優秀賞受賞を皮切りに、最近では、朝日新聞社などが主催し例年10月に行われている、全日本吹奏楽コンクールの全国大会で、連続3回の金賞を獲得しています。

練習は、放課後行われ、各教室に分かれパート練習を行った後、大きな部屋に全員が集まり合同練習を行います。人数の多さと演奏の迫力に圧倒されます。生徒たちは、畠田先生の厳しい指導のもと練習を重ねます。その姿に緊張感が伝わりました。

去年は、区民センターでの各種演奏会のほか、高輪2丁目のスーパーマーケットのリンクス前で野外演奏も行い、地域の行事にも積極的に参加しているそうです。今年も、地元や国内での演奏活動のほかに、欧州で、演奏会とコンテストの出場を予定しているとのことでした。



▲ 全部員が集まる迫力の総合練習の風景



▲ パートごとの練習風景



畠田先生(右)とかつての教え子の田村先生 ▶



花と緑で街を飾る白金猿町町会

白金猿町町会は高輪3丁目の一部と白金台2丁目の一部にまたがる広い区域で、会員は800名を超え、比較的大きな町会です。町の成立は古く、慶安4年(1651年)商人町屋の町として起立し、なんと300年以上の歴史があります。

76歳で、まだかくしゃくとしておられる町会長の村田直信さんから、町会活動について、いろいろなお話をお聞きしました。

「猿町花と緑の会」は、国土交通省と港区との間で締結し

ている「ボランティアサポートプログラム協定」に基づく助成を受け、国道沿いの空地に花を植えています。また、個人のお宅にも植木鉢と花が支給され、家の前などに花を飾っています。180世帯が参加し、もう5年間、年2回



▲ 国道沿い空地に皆で花を植えています

春と秋に花を植えています。

桜がほころびかけた今年3月23日、白金児童遊園(通称:猿町公園)でパンジーなどの花を会員に配布していました。花の配布が終わると、国道沿いの空地に移動し、町会長自らくわ入れし、皆で花を植えていました。あっという間に国道沿いの空地が色とりどりの花で飾られました。

「猿町花と緑の会」のおかげで、街は花で飾られ、地域の皆さんから評判がよいようです。去年は国土交通省からも表彰されました。

その他、町会ではいろいろな行事や活動を行っています。秋のお祭りには、神輿や山車がでて町内を練り歩きます。春のお花見会や夏の納涼大会には200名以上が参加します。

防災訓練を年2回実施し、さらに、毎年バスであちこちの防災安全センターの見学、体験をしています。

年末には、2週間にわたり、防災部、婦人部で町内全域の「火の用心」パトロールを実施しています。

マンション建設も多く、会員数は増加していますが、新しい会員の方にいろいろな行事の参加を呼びかけているので、新旧会員の融和は図られているようです。

さすが歴史ある町会で、多彩な行事をこなし、しっかりした運営を行っているようでした。



▲ パンジー等の花を配布します



▲ 千葉県西部防災センターを見学しました

この街にこの人あり

コメディアン 関根 勤さん

視聴者に共感と安心感をあたえる独特な存在感で、今やテレビのバラエティ番組では欠かすことのできないキーマンとしてひっぱりだこの関根 勤さん。この地域で生まれ育ち、そして現在も白金台にお住まいの関根さんにお話をうかがいました。

生まれは白金台。父は高輪消防署の消防士でした

生まれた当時、住んでいたのは白金台で、ちょうど医科研の横の辺りに家がありました。父は、高輪消防署に勤める消防士。僕が生まれてから百日ほどで高輪消防署の裏手に引っ越しました。家は、消防署から歩いて十歩という近さで、父が職場でクシヤミをするとかから聞こえるくらいでしたよ。(笑)

父は、あまり身体が丈夫ではなかったんですが、まじめな人でした。僕は、父が四十二歳の時の子どもだったんです。かわいがってもらいました。だからでしょうか、もの心ついた時から、大学三年の秋までは、父のように消防士になるつもりでした。ところが、テレビの素人のお笑い勝ち番組に出てスカウトされて、この世界(芸能界)に入ることになったんですね。スカウトされてなかったら、消防士になっていました。

走って、物まねして、充実していた高松中学時代

僕は、四人兄弟の末っ子です。兄と姉は白金小学校から高松中学に、僕は高輪台小学校から高松中学に行きました。小学校の頃は、校庭でよくドッジボールをやっていました。高松中学では、体育の時間に、学校の上にある山のでこぼこ道を走るんですよ。おそらく一周四百mくらいだと思んですが、それを五周走ってタイムをとるんです。僕は、速い方ではなかったけれど、とにかく、ひたすら走りました。そして、一年生の運動会の際に、クラスのリーダーの選手に選ばれたんです。本番の運動会では、一学年六クラスの三学年、全部で十八チームくらい参加したかなあ、その中でなんと優勝したんですよ。異常に興奮したのを今でもはっきりと覚えています。あの時、いざとなった時の力、人間の潜在能力のすごさを感じましたね。(笑)

物まねをし始めたのは、中学からです。おふくろが、西郷輝彦さんのファンだったんですよ。それで、当時、流行っていた西郷さんの「星のフラメンコ」っていう歌をカセットテープ持って友だちの前で真似したんですよ。「好きなんだけど、カカカッ、ト」ってね。そして、ものすごくウケてね、それこそイスから転げ落ちて笑ってくれたんですよ。それで味をしめちゃいました。それから、日曜日にテレビの寄席番組をみて練習して、それを月曜日に学校で披露するわけです。片岡知恵蔵さんのマネとかして。

高校に入ってから、文化祭に出たり、目黒福祉センターでアマチュアの活動を始めました。結局、大学三年の時に、テレビの素人のお笑い勝ち番組で優勝して、スカウトされて芸能界に入りました。でも、芸能界に入ってから十年間は大変でした、本当に。芸人とは言っても、いきなりデビューしてしまつて下積み期間がなかったわけなので、テレビには出ていたけど、その間も下積みをしていったわけです。

娘の子育てに悔いはまったくありません

娘(タレントの関根麻里さん)が生まれた時、まず最初に考えたのは、人に

迷惑をかけないような子どもに育てるためにはどうしたらいいか、ということでした。それで、いろいろと本を読んだりしました。

その結果、世の中、楽しいんだ、ということを徹底的に教えようと思つたんですよ。一日が終わる時、あーあ今日も楽しかった、と娘が思えるように毎日を過ごすうとね。

人の心って天秤だと思つてますよ。「正」と「負」の天秤。

「正」の方の天秤に「楽しい」という重石をいっぱい置いたら、ストレスを感じないと思つたんですよ。だから、かくれんぼや相撲ごっこなど、娘とは思いつき遊びました。本も読みましたよ。桃太郎の話もアドリブを入れて創作して二十五分くらいの話にしてみました。あの時期、仕事もヒマだったし(笑)、娘とはたっぷり遊びました。四十歳位までは、比較的時間があったので、娘の入学式、卒業式などにほとんど出席しました。娘から、お父さんもう来なくてもいいよ、と言われまして(笑)

それから、娘には、あなたが大切だ、という気持ちと言葉にして伝えてきました。「生まれてきてくれてありがとう」「君は僕の宝だ」なんて、普通の日本人なら絶対に口にしないようなことも平気で言ってきました。こんなことの積み重ねによって、「私は大切にされている」「大切な存在なんだ」と娘に自尊心が出てきたんだと思います。子育てに悔いはまったくありません。

白金台をよく散歩しています

今は、白金台に住んでいます。ええ、この辺りはいいですよ。便がいいし、住んでいる人たちも、おだやかですよ。プラチナ通りも広くて気持ちいいですね。この辺りを犬を連れて散歩するんです。白金台どんだり児童遊園にもよく行きます。

努力して、その後の結果については開き直る

僕の子どものころは「巨人の星」がよく読まれてました。その中には、地道に努力することが大事、そんな価値観がありました。僕もそう思うんですよ。さぼっていると、死ぬまでのうちにいつか苦労しそうな気がする。とにかく、一生懸命に生きる、ってことが大切だと思つています。

そして、努力した後のキーワードは「開き直る」ですね。努力したけれど結果がついてこないとしても、別に悪いことしてる訳じゃないし、これで死ぬわけでもないし。そして、やるだけやったら、その後のことは何であろうと、ありのままを前向きに受け止める、ことですね。

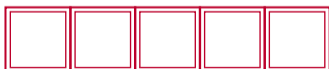
今後の目標ですか? そうですね、今やっていることを一日でも長く現役で続けたいですね。そして、最終目標は、それこそ五臓六腑をすべて使い切つてやりつくし、ぼっくり死ぬこと、かな。(笑)



関根 勤さん：コメディアン・タレント。1953年港区白金台で4人兄弟の末っ子として生まれる。高輪台小学校、高松中学校を経て都立八潮高等学校卒業。日本大学法学部在学中の1974年、TBSテレビ「ぎんざNOW!」の素人コメディアン道場で初代チャンピオンとなり、芸能界にデビュー。現在もバラエティ番組を中心に何本ものレギュラー番組をかかえる。タレントの関根麻里さんは長女。家族思いとしても知られ、2002年、良き父親に贈られる「ベスト・ファザー賞」を受賞。

クロスワードパズル 高輪縦横無尽

【出題科目】文学・歴史・地理・英語・生物・美術
難易度：★★
町人度：★★★★

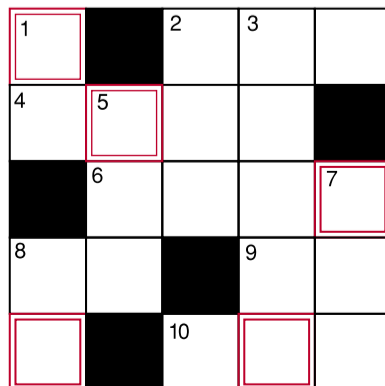


縦の鍵

- 1 牛の〇〇。餌をやったり
- 2 高輪暮らしの童話作家：巖谷小波の門下、黒田〇〇〇
- 3 人を運ぶのはギッシャ、荷物を運ぶのは〇〇〇〇
- 5 『半七捕物帳』、岡本〇〇〇は高輪生まれ
- 7 チャレンジコミュニティ大学を開設する明治学院大学、'Do for Others' が教育〇〇〇
- 8 「路しらぬ白金臺をあゆみくれば 耶蘇会堂の〇〇なりいづる」 窪田空穂

横の鍵

- 2 見よ遙かなる房総を / 山の彼方に大洋を / ここ高輪の一角に / 高くそびゆるわが母校
- 4 浅野は吉良に〇〇〇〇を抜き・・・松の廊下の刃傷沙汰
- 6 4月26日開園、白金台〇〇〇〇児童遊園。勤さんもお気に入り
- 8 牛を英語で
- 9 東京都庭園美術館、玄関のガラスレリーフは〇〇・ラリック作
- 10 会津松平家菩提所・三田実相寺。保科正之継室〇〇〇の方の墓も



歴史を読む

高輪にいた牛たち



現在の高輪からは、想像もできませんが、三百五十年も遡るとなんとこの地区に牛が六百頭もいたのです。

牛は、牛車として荷物の運搬用に使われていました。その証拠に、この地区の浮世絵に牛が多く描かれて、車町（俗称牛町）の地名が残っていました。

なぜ、ここに牛がいたのか、興味がいってきます。

港区立港郷土資料館学芸員の松



高輪の夕景

安藤広重画「東都名所高輪之夕景」
港区立港郷土資料館蔵

本健さん、吉崎雅規さん、願生寺のご住職さんからお話をうかがい、さらに「江戸の牛」や「江戸動物図鑑」などの文献を参考に当時の様子を想像してみました。

高輪地区で牛車が使われた理由

もともと、牛車（注1）は京都で一六一五年頃から、主に米の輸送に使われていたようです。当時、馬より牛の方が安く買え、飼料代も安く、積載量が三倍もあったのが荷役に使われた理由です。牛車を使う輸送業者は牛持と呼ばれていました。

江戸で牛車を使うようになったのは、一六三四年、芝増上寺の新築の時、建築資材を運ぶため京都の牛持三十八人が招聘されたのが始まりでした。最初は、市谷八幡前あたりに牛小屋を設け、そこから資材を運びました。牛持は工事が完了し、京都に帰ろうと



東都三十六景色 高輪海岸
二代歌川広重画 一八六二（文久二年）
港区立みなと図書館蔵

牛車の発展と衰退

した時、評定所に呼び出され、江戸に留まるよう命じられました。というのには、その頃ちょうど大名屋敷の新築工事が多くあったからです。

幕府は一六三九年、今の高輪二丁目（旧車町）、泉岳寺駅あたりに、牛持の屋敷と牛小屋を置く土地を貸与しました。諸国の資材を船で高輪海岸に運び、そこから牛で陸路を江戸あたりまで運ぶのに都合のよい場所であったからです。

高輪車町の牛持は、牛車を大名屋敷の工費用建設資材や米、衣類などの食糧、生活用品等の運搬に使いました。さらに、問屋や商店の荷物の運搬にも用いられ、寛永の最盛期には、牛は六百頭にも達

したようでした。しかし、一六五七年の明暦の大火の復興事業を機に、馬や牛を使わず、人だけで荷物を運ぶ大八車（注2）が使われ始めました。大八車は車力賃金も安く、狭い道路を自由に往來することができ、便利であったため、次第に台数を増やしていきました。

牛車による運搬の様子

そのため、牛持の経営も圧迫され、さらに大名屋敷の工事も少なくなってきたことから、牛持の牛の頭数は次第に減っていききました。そして、幕末の頃は百七十頭になりました。

明治三十四年には、牛持は芝区で三軒に減っていました。それでも、牛車は昭和初期まで使われていたのです。

重い荷物を積んだ牛車が何台も狭い道を牽き続けると往來の妨げになることもあったようでした。また、雨の日は、重い荷物の牛車は、ぬかるんで身動きがとれなくなるので、休みにしました。牛の飼料は、麦、麩のから、酒かすなどが使われ、煮炊きして与えた飼料もありました。何百頭の飼料と薪の確保は、大変であったよう

牛の供養塔

牛持たちは、働きのものを牛を供養するため、大きな供養塔を建てました。現在も高輪二丁目にある願生寺の一角に、大きな牛の供養塔が残されています。碑ははじめ一七三八年に建てられ、今の碑は一八二八年に再建されたものです。



東海道 高輪牛ご屋
河鍋暁斎画 一八六三（文久三年）
港区立港郷土資料館蔵



重い荷物を運ぶ牛の写真
大正～昭和初期
願生寺 日高貞彦氏提供

（注1）人を運ぶ時は牛車といいますが、荷物を運ぶ時は牛車といいません。
（注2）大八車は、芝車町大工八左衛門が発明しました。

わたしたちの街の身近な公園

港区立亀塚公園



高輪地区には、四季折々の表情でわたしたちを楽しませてくれるさまざまな公園があります。今回は、そんな公園の中から亀塚公園を紹介します。



亀塚公園は、多くの樹木と芝生が織りなす緑の美しい公園です。その一角にはタンポポが自生し、緑と黄色のコントラストが鮮やかです。

公園内には、史跡の古墳や子供の遊び場、展望テラスなどの様々な施設もあります。歴史を感じながら、よく整備された芝生や花壇の花を楽しめる公園として、多くの住民や働く人たちの憩いや遊びの場として利用されています。



自然を観る



1 遊具ゾーン

園内には、芝生・砂場・遊具が設置されています。子どもたちの遊び場として利用され、毎日にぎやかな声がこだましています。



7 樹木の特徴

ランドマークとなるような大きなイチョウ、エノキ、サクラなどの在来種が残されており、都心の中に残された自然を感じさせる公園でもあります。



8 外壁

亀塚公園の外壁は、旧華頂の宮邸の外壁がそのまま残っており、歴史的な名残が感じられます。

至 田町駅

至 伊皿子



2 亀塚(古墳)

亀塚は、古墳とは断定はできないもののその可能性が高い、とされており、都の指定史跡に指定されています。また、古くは「更級日記」に見える竹芝寺の伝説地とも言われ、これらの旨を記した「亀山碑」を頂上に建て、現在に伝えています。



5 カントウタンポポ

公園の一角に植生保護区域が設けられ、カントウタンポポの自生地としての保護と増殖をめざしています。3月から5月にかけて黄色い花を見ることができます。



3 展望テラス

御田八幡神社方面から長い階段を上ると展望テラスがあります。ここからは、ビル群と斜面の緑をのぞめる爽やかな景色が広がっています。



4 園路(階段)

展望テラスに向かう園路(階段)では、オオムラサキの花やユキヤナギの花が見られ、斜面の草花を間近で楽しむことができます。

6 桜の花

桜の花の季節には美しい景観をつくりだし、お花見にとっても良い公園です。

町工場の発明家たち

岡田浅次郎さん、高橋吉五郎さんとの出会い

町工場で働きながら、たくさんの特許や実用新案をとられた渡邊義信さん（八十五歳）は、科学好きで好奇心旺盛な子どもだったそうです。そんな渡邊義信さんは、小学生の時、白金に住む二人の人物に出会い、後々の人生に大きな影響を受けました。今回は、この二人の発明家との出会いについてまとめた文章を掲載しました。

特許許可局訪問

昭和九年頃、私が三光尋常小学校六年の時の思い出です。当時の白金地区の町工場は、満州事変（昭和六年）や上海事変（昭和七年）のあとのこと、軍需景気で活気づいていました。

友人二人と、雑誌「子供の科学」の発明や特許についての記事を読んでいるうちに、話がだいに盛り上がり、特許についてもっと詳しく専門家に聞いてみたいということになりました。そこで、ある日の放課後、虎の門にある「特許許可局」（現在の特許庁）に行ってみることにしたのです。

特許許可局に着くと、もうすでに四時半、そろそろ役所が閉まる時間になっていました。お役人は、「君たちに発明とか特許とかを説明するには、もう今日は時間がないから、もっと早い時間に来てほしいね」と言いながら、分厚い帳面を開いて、その中から二人の名前を書きとめ渡してくれました。その紙には、「岡田浅次郎殿」と「高橋吉五郎殿」と書いてありました。「このお二人は君たちが住んでいる白金三光町で、工場を経営している方たちで、発明や特許のことに熱心で研究家だから、一度訪ねてみてください。」この次に来た時には、発明や特許の話は沢山してあげようね」と言って、紹介状を渡してくれました。

岡田浅次郎さんのこと

岡田浅次郎さんは、同級生のお父さんだったので、すぐ分かりました。三光尋常小学校の正門の前にある工場（現在の港区立三光幼稚園）株式会社岡田鉄工所の社長さんでした。岡田さんは、次のようなお話をしてくれました。

「物をつくる工場は、絶えず創意工夫をして新しい製品を考えているのです。良い製品ができた時は、すぐ図面を作って、特許や実用新案を申請します。型を表す場合に、意匠登録を申請した方がよい場合もあります。また、その製品に何々印などというマークを記して強調する時は、商標登録を申請します。この四種類のことを総合して『工業所有権』というのです。特許は二十年間、実用新案は十年間、国が守ってくれるので、まねをされずに製造することができのです」

岡田さんは「これが最近、特許がとれた製品ですよ」と言っていて、細く編みあがったくさりのようなものを見せてくださいました。「これは、幅10cmから20m位まで、組み合わせ方で何十



岡田浅次郎さん

高橋吉五郎さんをたずねて

三光坂を下って、バス通りの交差点をこえ、四の橋の方向にまっすぐ向かっていく「愛鹿通り」に入ると、すぐ右側に合名会社高橋工場がありました。その社長さんが高橋吉五郎さんでした。特許許可局の紹介状を見せて、発明特許の説明をお願いしたところ、応接室に通され、お話を始められました。

「私は、工場を独立して立ち上げる前は、人力車の車夫をしたりして、いろいろ苦労しました。大正時代の終わり、ある人のお供で、ドイツなどの外国に行く機会がありました。その時、外国で見たもの、使ったものをすべて頭に入れて帰ってきました」高橋さんは、さらにこう続けました。「まず感じたのは、水を井戸からつるべで汲み上げていたようなものでは、日本はだめだということです。外国で手に入れたカタログなどを参考に、バルブや給水栓を製造できる工場を白金に設立しました。でも、外国に行くと、一番頭に



高橋吉五郎さん

残っていたのは便所のことでした。用を足した後、ザーと水で流してしまうのですよ。愉快でしたね」と高橋さんは笑っていました。あの時の笑顔が印象的で忘れられません。「給水栓やバルブやコックをつくりながら、外国の素晴らしい便所のことが頭から離れないんだよ」と笑いながら、「日本の便所を水洗式にしてやろうと、フラッシュバルブの製作に着手したんだよ」と言い、さらに発明特許について面白おかしく話してくださいました。高橋吉五郎さんは、日本で最初に「フラッシュバルブ」の発明をされたパイオニアでした。さらに、一本のハンドルで湯と水を出す混合弁「ミキシングバルブ」の発明をされた方でもありました。

その後、工場は発展をとり、現在は台東区にあります。昭和初期に高橋さんが発明した技術は、今もそこで脈々と受け継がれています。

探究心の強い少年だった渡邊さんは、この出会いにより自身も工業製品の開発の道に進まれました。そして、あの時の二人同様、いくつもの特許や実用新案をとられました。

一緒に作ろう情報紙!

地域の情報をどしどしお寄せください

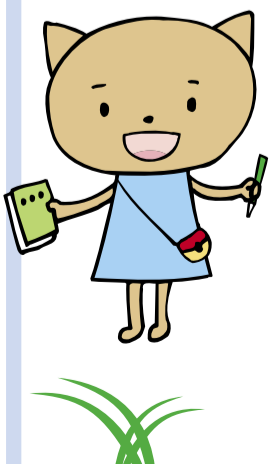
高輪地区情報紙では、地域在住・在勤のみなさんに喜んでいただけるような紙面づくりを目指して、ボランティア編集員が日々、奮闘中です。紙面のさらなる充実のため、みなさんからの情報を募集しています。どんな情報や要望・感想でもOK!です。お便り、お写真などをお寄せください。

- こんな情報を取りあげて欲しい
- 地域で見つけたおもしろい場所、店、人
- 表紙に掲載する絵（但し、絵や写真などの平面的なもの） などなど

情報を採用させていただいた方には、高輪地区総合支所発行の手づくり地図『高輪今昔』を差し上げます。

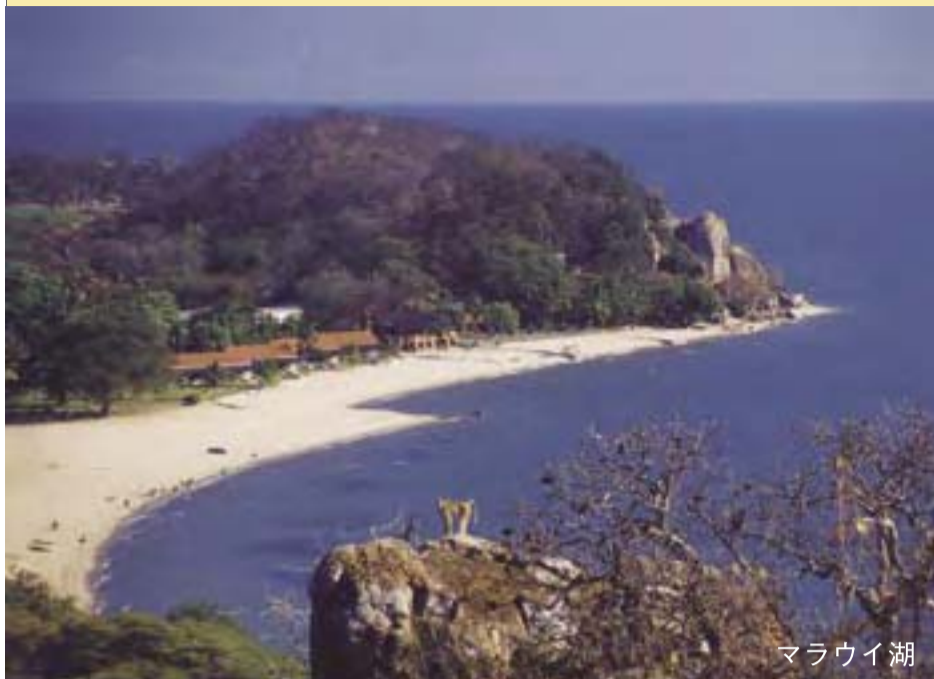
★ボランティア編集員も募集中! 私たちと一緒に情報紙づくりをしませんか? 詳細はお問い合わせください。

あて先・お問い合わせは、
港区高輪地区総合支所 地区政策課 「高輪地区情報紙」係
〒108-8581 港区高輪1-16-25
電話03-5421-7123/FAX03-5421-7626



大使館探検隊

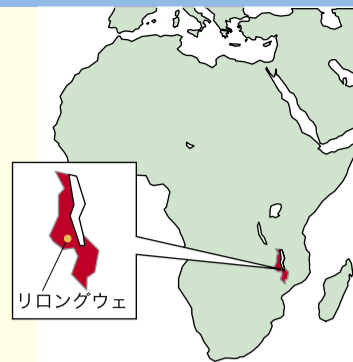
マラウイ大使館



マラウイ湖

面積：約 11 万 8000km²
 人口：1,360 万人（2006 年：世銀）
 首都：リロングウェ
 言語：チェワ語（国語）、英語（公用語）

マラウイ共和国大使館
 港区高輪 3-4-1 高輪偕成ビル 7 F
 Tel：03-3449-3010
<http://www.malawiembassy.org/>



リロングウェ



ゴンドゥエ大使、チリマ参事官、カロンガー等書記官（左から）

アフリカ大陸の東南部に位置する細長い国マラウイ。私たちに、あまりなじみのない国ですが、国土の多くをしめるマラウイ湖の南端にある国立公園は、「湖のガラパゴス諸島」の異名をとるほどの固有種の多さと進化の多彩さで知られ、世界遺産にも登録されています。今回は、高輪3丁目、桜田通り沿いにあるマラウイ大使館をたずねました。

まず最初に、私たちは、ゴンドゥエ大使のお部屋に案内されました。チリマ参事官、カロンガー等書記官にも途中からインタビューに参加していただきました。皆さん、とてもやさしそうな方達でフレンドリーに接してくださいました。

平和な国マラウイ

マラウイは国土の約20%を南北に細長いマラウイ湖が占めています。多くの都市は高地にあるため、比較的過ごしやすい気候で夏でも日本ほど暑くはならないそうです。

マラウイは、1964年にイギリスから独立して以来、紛争の多いアフリカの中で、平和を維持しています。

国のキャッチフレーズは「アフリカの温かい心」で、マラウイ人は温厚でフレンドリーな性格の人が多くいるとのこと。平和が維持されているのは、このマラウイ人の性格のおかげかもしれませんね。



▲紅茶の栽培

マラウイ料理
 右上が主食のシマ▼



豊富な自然遺産

マラウイ湖は、アフリカで3番目に大きい湖で、淡水魚の数は1000を超え、世界遺産に指定されています。

リウオンデ国立公園は、象、シマウマ、カバ、ワニなど動物の楽園となっており、400種類を超える鳥類も生息しています。

産業・生産物

産業は農業が主体です。小麦、とうもろこし、米などのほか、紅茶の栽培がさかんです。布製品や紅茶、タバコ、砂糖、マカデミアナッツ、コーヒー、ジャムなどの他、ウラニウムも輸出しています。

マラウイ人の食生活

マラウイ人の主食はとうもろこし粉を湯でねって固めた「シマ」です。「シマ」と一緒にチキン、ビーフ、やぎ肉、煮野菜、煮豆などを食べます。また、マラウイ湖でとれる「チャンボ」という魚を食べます。日本の鯛に似た味でとてもおいしいです。

歌とおどり

マラウイ人は歌とおどりが大好きです。週末の教会、収穫の時期、結婚式のお祝いの時などは歌と踊りで楽しめます。村に行くと、村人たちは大歓迎で伝統的なおどりを披露してくれます。

日本との関係、地域について

日本との関係は、独立した時から始まっていますが、日本にマラウイ大使館が置かれたのは、1992年で、マラウイに日本大使館が置かれたのは今年になってからです。日本から青年海外協力隊員がこれまでに1300名以上も派遣されており、更なる両国の友好関係を期待していただけるとのことでした。

最後に、大使から、この界隈のお気に入りの場所をお聞きしました。「桜のお花見は高輪プリンスホテルで、ランチは、品川あたりのレストランまで足を運ぶこともあります。また、買物は妻と麻布へ食料品や本を買いにいきます」とのことでした。

高輪発

マダムミムラの
 簡単でも本格風
 料理教室



鶏肉入りお米のサラダ (Salade de Volaille)

| | | | |
|------|---------------------------------------|-----------|--|
| 米 | 100g (2/3カップ) | サラダ菜 | 適宜 (バジルでも可) |
| 鶏ささみ | 2本 (くず野菜と10分ゆでる) | トマト | 1個 (皮種をとりさいの目切り) |
| リンゴ | 1/2個 (1cmさいの目切り) | ゆで卵 | 1個 (粗みじん) |
| レモン汁 | 1/3個分 (リンゴにかけ) | | |
| セロリ | 1本 (筋を取りさいの目切り) | ピネグレットソース | ワインピネガー(りんご酢でも可) 大さじ3 塩、コショウ 少々 マスタード 大さじ1 オリーブオイルまたはサラダ油 大さじ5 |
| そら豆 | 約300g (軽くゆでる) (グリーンピース、アスパラガスなども可) | | |

- 作り方**
- 1 米を水から7分前後ゆで、水気を切り冷ます。
 - 2 ささみを1cmのさいの目に切り冷ます。
 - 3 セロリに軽く塩をふり、少しおき水気を拭き取る。
 - 4 リンゴは切ったらすぐにレモン汁をまぶす。
 - 5 トマトの水気を拭き取る。
 - 6 サラダ菜を敷いた器に1から5の材料を盛り、卵、そら豆を散らす。
 - 7 ワインピネガー、塩、コショウ、マスタード、オイルを混ぜ合わせてピネグレットソースを作り、サラダ全体にかける。

●**ワンポイント・アドバイス**

- ・お米は、タイ米などの粘り気がないものの方がいいです。
- ・ピネグレットソースは、食べる直前に混ぜ合わせましょう。
- ・塩を酢でよく溶かしてから、オイルを加えましょう。

三村真喜子さん
 高輪で30年以上、フランス料理教室トゥロワ・ヴィラージュを主宰。フランスの国立ホテル学校に留学し、ホームステイをしながら、フランス料理を学ぶ。フランス料理を基礎からしっかり学んだ経験を生かし、日本人に無理なく作れる本格レシピを紹介している。

救急情報の活用支援事業 が始まります

港区では、ひとり暮らし高齢者などの安全・安心の支援として、「かかりつけ医」や「搬送先医療機関」などと連絡・連携し、迅速な救命措置等に役立てる仕組みを全国で初めて実施します。

1 事業内容

「かかりつけ医」「服薬内容」「持病」などの救急時に必要な情報を容器(救急医療情報キット)に収めて自宅の冷蔵庫に保管し、急病等の救急時(119番出動)に、本人が病状などを説明することが出来ない場合、保管された情報を救急隊が活用します。

2 対象者

- (1) 高齢者
- (2) 障害者
- (3) 健康上、不安を抱えている人

3 申請・配布場所

- (1) 各地区総合支所 暮らし応援課
- (2) 福祉会館等
- (3) 各地区包括支援センター
(65歳以上の人のみ)



救急医療情報キット

4 問い合わせ

高輪地区総合支所 暮らし応援課 保健福祉係
電話 5421-7085

洞爺湖サミットに向けた パトロールを実施します

7月上旬に北海道で開催される洞爺湖サミットに向け、首都東京ではテロの発生が懸念されています。実際、3年前にイギリスの首都ロンドンで、グレンイーグルス・サミット期間中に同時爆破テロが起きており、今回のサミットでも同じ危険性があるといえます。

そこで、高輪地区では、地域団体、行政、警察が協力して、サミット開催前の6月に、パトロール実施を予定しています。

今回、洞爺湖サミットに向けたパトロールを行う意義は、サミット開催前に地域で不審な動きがないかチェックし、同時に自分のまちは自分で守るという意識を広めることで、テロリストが活動しにくい環境を作ることにあります。

また、当地区では、生活安全・環境美化活動推進協議会の地域パトロール専門部会が、年に1、2回、地域の安全の観点からのパトロールを地域の方々と連携して総合的に実施するとともに、それによって各団体がパトロールに自主的・積極的に取り組める‘きっかけ’となるような活動を目指しています。

詳細は、後日、町会等の各団体を通して皆さまにお知らせしますので、ぜひご参加くださいますよう、よろしく申し上げます。

高輪地区総合支所 地区活動推進課 活動推進係
電話 5421-7620

地域情報紙に関するアンケートを実施しました

高輪地区総合支所では、地域の方を対象に、インターネットを利用した区民意向調査(アンケート調査)を実施しました。

【調査概要】

- 目的 高輪地区情報紙「あなたの街」の認知度や記事内容に対する関心度など、情報紙がどのように読まれているのかを調査し、今後の情報紙作りの参考とします。
- 調査対象 高輪地区(三田4・5丁目、高輪、白金、白金台)の15歳以上の男女
- 調査方法 インターネットリサーチ
- 調査期間 2007年12月18日(火)～12月21日(金)
- モニター数 380名(回答 178名)
- 調査結果より

“情報紙『あなたの街』の認知度は40%”

40代以上の方の認知度が比較的高く、性別では女性のほうがやや認知度が高くなっています。10代、20代の認知度が低く、若い世代にも読んでもらうことが今後の課題となります。

『あなたの街』の印象は、「たいへん良い」が13%、「良い」が53%で合わせると7割近くになります。一方、「悪い」「大変悪い」を合わせても3%以下と、地域に密着した情報紙、地域を再発見する情報紙として比較的良好な印象をもって読んでいただいていることがわかります。

記事の中では、「歴史を読む」「自然を観る」「大使館探検隊」が興味を引いた記事として上位を占めています。また、今後取り上げて欲しい内容については、「歴史の記事」「お店の情報」など、さまざまなご意見をいただきました。

なお、調査結果の詳細は、高輪地区総合支所地区政策課でご覧いただけます。



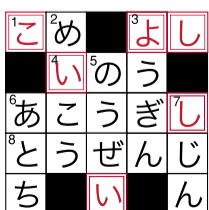
高輪地区総合支所 地区政策課 区民の声担当
電話 5421-7124

区役所のサービスや施設・催し物のご案内は **みなとニール**へ。

☎5472-3710 年中無休 午前7時～午後11時

前号
クロスワード
パズルの答

いししいよしこ



安 勢津子
鈴木 園江
河村 保弘
大場 由里
安藤まりえ
安達 貢
安藤 洋一

渡邊 義信
森田 國弘
齊藤 亜由美
川上 裕子
生田 優子
中嶋 路子

情報紙の仲間に入って早一年。素晴らしい友達に出会えたり、地域の事もいろいろ知ることができ、楽しい時を過ごしています。皆様も、高輪支所4階を訪れてみてください。新しい出会いが始まるでしょう。(勢)

白金猿町町会長さんのお話をおうかがいし、様々な活動に婦人部が活躍していることに感心しました。やはり、町会には女性の活躍が必須であることを再認識しました。(路)

分刻みのスケジュールの中、丁寧に、気さくに、インタビュアーに応じて頂いた関根さん。自然体という言葉がぴったりな素敵な方でした。ありがとうございました。(亜)

高輪地区情報紙についてのメールによるアンケートではいろいろご意見をいただきありがとうございます。読者の皆さんがしっかりと記事を読んでいただいているのに編集部一同感激しております。これからも、より一層、紙面の充実に努めていきたいと思えます。(洋)

編集だより